

## 障害者反差別研究会－障害者反差別運動結成へ向けた呼びかけ

かつて共同体の中で生きていた障害者が排除され隔離されてきたのは、近代に入ってからではないでしょうか？そして、障害者に対する差別を差別としてとらえられない状況が続いています。障害者運動は最も遅れて来た反差別の運動として始まりました。

障害者の運動は、70年代に入って大きな転換を迎えました。それまでの運動は、親や関係者が担い、社会に迷惑をかけないで、社会の片隅で生きる愛される障害者－保護の対象・慈愛の対象としての障害者、そして、努力して障害を克服するけなげな障害者、として生きさせられていました（時には、抹殺さえされてきました）。

それらのことに異議を唱え、反差別、代行主義の否定、反発達保障論（反優生思想）ということの内実として新しい運動の流れが生み出されました。

排除され抑圧された障害者の先達たちの運動は、怒りの表現であり、この健全者社会の健全者幻想を撃つ闘いでもありました。

80年代国際障害者年の掛け声と共に、障害者福祉がまがりなりにも進んだと言われます。しかし、そこにおける障害者がおかれる現状が根底的にかわったのでしょうか？養護学校の義務制の導入により、排除・隔離は逆に進んだし、障害者の施設への隔離、労働の場からの排除は総体的に見れば、ほとんど変わりません。テレビ番組で障害者が描かれることは増えたとはいえ、そこで描かれる障害者への役割期待は、努力して障害を克服するけなげさです。

そのような中でも、胸を張って生きる障害者が多くなってきたし、障害者のいろいろな形での仲間づくりは、進んできました。福祉施策についても、多くが世界的な障害者運動からの波及ということがあるにせよ、障害者の粘り強い闘いの中で獲得してきたこととしてもあります。しかし、今の障害者福祉施策の延長線上に障害者が生き生きと行き得る未来があるとは思えません。福祉施策の進行の中で融和主義にからめとられ、反差別という地平を忘れ去るという事態さえ生まれて来ています。

そして、この間、障害者運動に関わる健全者をとらえれば、新しい流れの障害者運動の基本的な理解さえもできていず、障害者を押しのける、障害者の主体性を奪うような形で関わることがやみません。

また障害者の中でも、そもそも障害者規定さえちゃんとなしえないような理論の貧困の中で、運動方針の混乱が生み出されています。また「障害別」で分断された障害者運動の否定的現状も続いています。

今こそ、障害者運動の総体的方針と、「障害別」を越えた運動の構築がとわれています。そのキー・ワードは差別であり、差別を考える中での深化です。

そういう状況の中で、とりあえずできることから一つずつ進めていくこととして、理論的整理から始めたいと思います。この理論的作業は、障害者差別のみならず、そもそも差別とは何か？という問い返しをしながら、幅広い広がりや深化を求めて行きます。

そのようなこととして、障害者反差別研究会の結成をよびかけます。勿論、障害者反差

別運動に開いていくこととしての研究会です。とりあえず、この「反差別（S）」という冊子の発行で議論の場を作り、そこでの理論的深化を図ります。

皆さんの、参加、投稿、批判といういろいろな形での参加で共に作り上げて行きたいと願っています。

1995. 10. 21

吃音者反差別運動